

A管マウスパイプ(替え管)

※ 出荷時にはB♭管マウスパイプが楽器に取り付けられています。

ピッコロトランペットのよくある質問

音がおかしくなった、息が通らなくなった

ピストンは正しくバルブケーシングに納まっていますか？
ピストンには1、2、3、4番があり、それぞれに異なる息の通り道(穴)があります。それぞれが、対応するバルブケーシングに正しく納まっていないと、うまく息が通らず、音が出なくなります。笠ネジを緩め、ピストンをゆっくり取り出し、確認してみましょう。

ピストンフェルトなどのパーツが消耗していませんか？

ピストンフェルトや笠フェルト、バルブガイドなどの消耗パーツが劣化してしまうと、穴位置がずれ正しい音が出なくなります。また、カチャカチャとノイズが出てしまうことがあります。この場合はパーツ交換が必要ですので修理に出しましょう。

ウォーターキーから息漏れをしていませんか？

ウォーターキーホルクが欠けたり、劣化すると息漏れが起きます。この場合は修理に出しましょう。

ピストンの動きが悪くなった

バルブオイルは正しく注油されていますか？
ピストンには潤滑油として「バルブオイル」を使用します。演奏の前、後、また演奏の合間に正しくバルブオイルを注しましょう。
ピストン内部のオイルがすぐに黒く汚れてしまう→新品のうちしばらくは、金属の摩擦による金属粉でオイルが汚れることがあります。オイルを多めに流し、ガーゼでよく拭き取ってから新しいオイルを注し直してみましょう。

バルブオイルを注したのですが良くなりません→管内の汚れやホコリがバルブケーシング内に入り込んだ可能性があります。一度ピストンを抜き出し、バルブケーシング内とピストンをガーゼでよく拭き取ってから、新しいオイルを注し直してみましょう。それでも直らない場合は、バルブケーシングに傷がついていたり、他の原因が考えられるので修理に出しましょう。

長い期間お手入れせずに放置していませんか？

お手入れせず長い期間放置すると、古いオイルが蒸発して汚れが残ったり、水分で錆び付いてしまったりして動作不良が起こります。ときどきのお手入れを参考に新しいオイルを注しても改善しない場合は一度メンテナンスに出しましょう。

ピストンを押すとカチャカチャと異音が出る

ネジが緩んでいませんか？
バルブケーシングの笠ネジ、底ネジ、ピストン軸のネジなどが緩んでいる場合は、しっかりと締め直しましょう。

笠ネジ、底ネジがうまく締まらなくなった

ネジの部分が変形していませんか？
反対方向に少し回し戻して、引っかかったところで正しい方向に回し直してみましょう。それでもうまく締まらない場合は変形がひどい可能性があります。無理に締めないで修理に出しましょう。

抜差管が抜けなくなった、固くなった

抜差管はまっすぐ抜いていますか？
抜差管は2本の管が平行になっています。両方の管に同じ力がかかるようにゆっくり抜きましょう。また、管の方向に沿ってまっすぐ抜くように気をつけましょう。

長い期間お手入れせず放置していませんか？

お手入れせず長い期間放置すると、古いグリスが硬化したり、残った水分で錆び付いてしまったりして動作不良が起こります。ときどきのお手入れを参考に新しいグリスを塗りなおしましょう。それでも改善しない場合は一度メンテナンスに出しましょう。

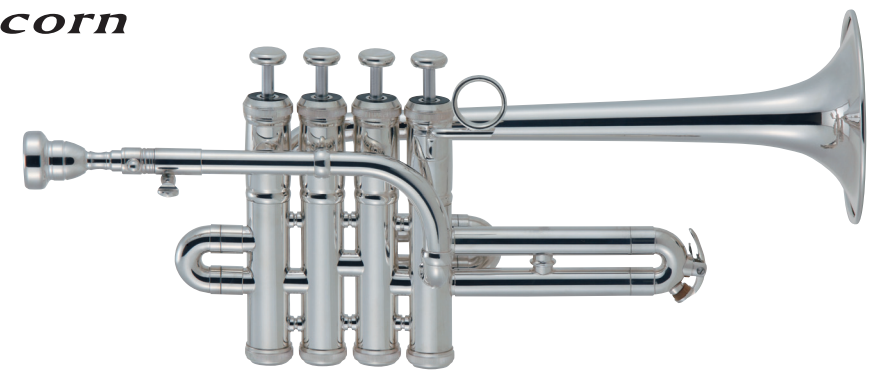
抜差管に傷がついていませんか？

屋外で演奏した場合など、砂ぼこりが行って抜差管の内側を傷つけてしまうことがあります。まずは汚れを拭き取りましょう。新しいグリスを塗っても引っ掛かりがあるなど改善しない場合は、修理に出しましょう。

抜差管やその周辺など、ぶついたりしませんでしたか？

抜差管が入った状態で表面やその周辺をぶつけて凹みができてしまうと、その状態から抜差管が動かなくなることがあります。直接抜差管に凹みがなくても平行がゆがむなど、抜差管が動かなくなる場合があるので、その時は無理に抜こうとしないで修理に出しましょう。

Brasspire unicorn



ピッコロトランペット 取扱説明書

この度は、本製品をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用になる前に、本取扱説明書をよくお読みいただき、製品の性質等を十分にご理解いただきますようお願いいたします。

！ 安全上のご注意

- オイルや小さな部品類をお子様や口にしない様、ご注意ください。
- 楽器を投げたり振り回したりしないでください。部品が抜け飛んだり、楽器の一部が当たると危険です。
- ぶつかけたり、落下や転倒によって変形する恐れがあります。外観を損なうだけでなく、抜差管やマウスピースが抜けなくなることにつながります。取扱いは十分ご注意ください。
- 楽器を火気に近づけないでください。火災やけがの原因となることがあります。
- 楽器を投げたり振り回したりしないでください。部品が抜け飛んだり、楽器の一部が当たると危険です。
- 調整、修理が出来なくなる恐れがありますので改造はおやめください。保証の対象外となります。
- 万が一オイルが目や口に入った場合、流水で良く洗い、異常があるようなら医師にご相談ください。

ご用意いただくもの

- 必要なもの**
- バルブオイル
 - スライドグリス
 - ガーゼ
 - クリーニングロッド(掃除棒)
 - クリーニングクロス
- ピストンに注油し、動作をスムーズにします。また、ピストン・バルブケーシングを保護する効果もあります。抜差管に塗り、動作をスムーズにします。また、汚れ・錆による固着を防ぎます。ピストン・抜差管の汚れを取り除く際に使用します。ガーゼを巻いて、バルブケーシング・抜差管の内側の汚れを取り除く際に使用します。楽器表面の汚れを拭きます。

あったら便利なメンテナンス用品

- シルバーポリッシュ
 - フレキシブルクリーナー
 - マウスピースブラシ
 - 中性洗剤
- 銀メッキ仕上げの楽器の銀の変色を磨き取ります。管内の掃除に使用します。マウスピースの内側を掃除します。管内の洗浄に、水で薄めて使用します。

！ 楽器の取り出し方

楽器をケースから取り出す際は、ベルとマウスパイプを持ちます。ピストン、抜差管を持たないで下さい。故障の原因になります。楽器を収納する際も、ベルとマウスパイプを持ち収納して下さい。

※ 抜差管が元の位置に納まっているか確認して下さい。抜差管が抜かれた状態のまま収納すると抜差管の故障やケースが汚れる原因になります。



楽器の置き方

不安定な場所に楽器を置くと、楽器が転倒する恐れがあります。安定した場所に楽器を置いて下さい。演奏が終わった後や小休憩、移動のときは、ケースに入れることをおすすめします。



1 バルブオイルの注油



① 笠ネジを緩め、ピストンを真つすぐ途中まで抜きます。



② ピストンにバルブオイルを2~3滴注油します。



ピストン番号

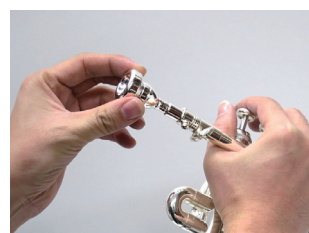
③ ピストンに刻印されている番号がマウスピース側に来るように合わせ、ゆっくりバルブケーシングに納めます。ピストンを軽く左右に回し、バルブガイドをケーシング内の溝にはめます。笠ネジをしっかりと締めた後、2~3回ピストンを動かし、バルブオイルをなじませます。



バルブガイド

④ マウスピースレシーバーから息を吹き込み、息が通るか確認します。息が通らない場合は、ピストンの向きやバルブケーシングに入れるピストンが間違っているかもしれません。確認しましょう。

2 マウスピースの取り付け

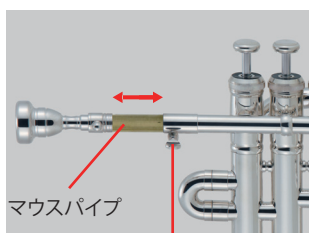


マウスピースは軽く回すようにして入れます。

※ 絶対に強く押し込まないで下さい。抜けなくなることがあります。

※ マウスピースを落としたりぶつけたり、乱暴に扱わないで下さい。また、マウスピースを装着し、ポンポンと叩き音を出す行為は、マウスピースが抜けなくなる原因となりますのでお止めください。

3 チューニング



マウスパイプ止めネジ

チューニングは、マウスパイプ止めネジを緩め、マウスパイプの抜き具合で調整します。

※ 楽器のピッチは温度によって変わります。管内によく息を吹き込んで温めてからチューニングをしましょう。

- マウスパイプを抜く → 低くなる
- マウスパイプを入れる → 高くなる

※ A管 (A調) マウスパイプを使用の際は、一般的に第1、第3、第4抜差管を(第2抜差管は固定)、B \flat 管 (B \flat 調) マウスパイプ使用時より、それぞれ抜く必要があります。抜差管の抜き具合はチューニングメーター等でご確認ください。

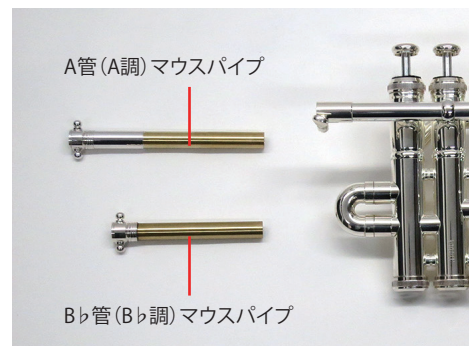
4 付属マウスパイプについて

本製品にはB \flat 管 (B \flat 調)、A管 (A調) 2種類のマウスパイプが付属されています。ピッコロトランペットは管全体の長さがB \flat トランペットの約半分で、音全体がB \flat トランペットより1オクターブ高い楽器です。本製品は付属マウスパイプを差し替えることで、楽器をB \flat 管 (B \flat 調)、A管 (A調) に切り替えることができます。

B \flat 管 (B \flat 調): 通常のB \flat トランペットの1オクターブ上となります。第4ピストンの使用以外はB \flat トランペットと基本的に同じ運指となりますので、B \flat トランペットからの持ち替えも容易です。

A管 (A調): B \flat 管マウスパイプの半音下になります。二長調 (D調) のバロック音楽を演奏する際、二長調 (D調) の楽譜の読み替えが容易となるため、主にオーケストラやアンサンブルで使用されます。

※ 本製品のマウスパイプはコルネットシャンクです。通常のトランペットマウスピース (トランペットシャンク) は使用できません。付属マウスピース同様、コルネットシャンクのマウスピースをご使用ください。



A管 (A調) マウスパイプ

B \flat 管 (B \flat 調) マウスパイプ

1 抜差管のお手入れ



① ウォーターキーから水分を抜きます。



② 抜差管を抜きます。抜差管を抜き差しするときは、対応するピストンを押しながら行って下さい。

③ 管内の水分を出します。水分を出すときは、抜差管を落とさないように気を付けながら、1本ずつ行って下さい。

④ 抜差管を元に戻します。

※ 抜差管は元々入っていた時と同じように向きを揃えて入れて下さい。

※ ピストンを押さずに抜差管を抜き差しすると、管内の気圧が変化し、動かしにくかったり管内を傷めたりする恐れがあります。

2 ピストンへの注油



演奏前と同様に、ピストンにオイルを注油して下さい。それぞれのピストンにオイルを2~3滴注油します。ピストンを元に戻し、ピストンを数回動かして、オイルをなじませます。

※ 長期間演奏しない場合は、水分をよく拭き取り、多めにオイルを注油して下さい。錆び付きの予防になります。



3 楽器表面のお手入れ

クロスなどを使って管体表面の汚れやほこりを拭き取って下さい。

! 楽器をケースに収納する際は、抜差管を管内に全て納めて下さい。抜差管の故障やケースが汚れる原因になります。

ときどきのお手入れ ピストンとバルブケーシングのお手入れ (月に1~2回)



! ピストンは心臓部とも言われ、ミクロンレベルの隙間をピストンが上下運動をする、非常に繊細な部分です。動きが悪くなったと感じたら、ピストン、バルブケーシングの清掃を行い、バルブオイルを注油して下さい。

① 笠ネジを緩め、ピストンをゆっくりバルブケーシングから抜き取ります。抜き取ったピストンは、どのバルブケーシングから抜き取ったか分かるようにして、ガーゼなどを敷いた安定した場所に置いて下さい。底ネジも外します。



! ピストンは、入れる場所、向きが決まっています。間違っていると、音が鳴らなかったり、ピストンが動かなくなってしまう故障の原因となります。

② クリーニングロッドが露出しないようにガーゼを巻き付けます。



③ ガーゼを巻き付けたクリーニングロッドでバルブケーシング内側の水分、汚れを拭き取ります。

※ 拭き取った後、バルブケーシング内にガーゼの糸くずが残っていないか確認して下さい。



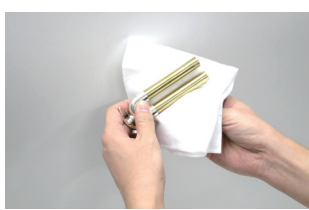
④ ピストンの汚れをガーゼで拭き取ります。

⑤ 底ネジを元に戻します。



⑥ ピストンにバルブオイルを注油し、バルブケーシングに納めます。笠ネジをしっかりと締めた後ピストンを数回動かして、バルブオイルをよくなじませます。

ときどきのお手入れ 抜差管のお手入れ

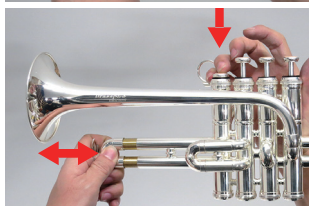


! 抜差管表面もピストンと同様に、汚れが溜まると動きが悪くなり、固着の原因となります。定期的にスライドグリスを塗って下さい。目安として、毎日吹く場合は1週間に1回程度、間が空く場合はその都度行って下さい。

① それぞれの抜差管を抜きます。抜差管を抜き差しする時は、対応するピストンを押しながら行って下さい。



② ガーゼをクリーニングロッドに先端が露出しないように巻き付け、各抜差管の内側の汚れを取ります。



③ 各抜差管の古いグリスや汚れをガーゼで拭き取り、新しくスライドグリスを少量塗ります。

④ スライドグリスがなじむように、抜差管を数回動かします。

⑤ はみ出たグリスをガーゼで拭き取ります。

ときどきのお手入れ 楽器の洗浄

楽器の内部に砂埃などの異物が混入したり、管内の汚れがひどい場合には楽器を水洗いしましょう。

① お風呂や水槽などにぬるま湯 (30℃~40℃) を張り、中性洗剤 (台所用など) を数滴たらします。

② 楽器からピストンを抜き、底ネジも取り外します。

③ 抜差管を抜きます。

④ 水溶液を含ませたフレキシブルクリーナーで管内、抜差管、ピストンを洗います。

⑤ 洗い終わったら、きれいな水で水溶液を十分に洗い流して下さい。

⑥ 楽器の表面はきれいな布で水分をよく拭き取り、管内も十分に乾燥させてください。

⑦ ピストン、抜差管などを元に戻します。ピストンの注油、抜差管のグリスアップを必ず行って下さい。